２０２４年度第１回町田市立国際版画美術館運営協議会議事要旨

■日　　時：２０２４年１０月３日（木）　午前１０時３０分
■会　　場：町田市立国際版画美術館　講堂
■内　　容：

１．報告事項
（１）２０２３年度の美術館評価について　（資料１）

（２）２０２３年度後期の美術資料の収集状況について　（資料２）

（３）展覧会の振り返りと総括について
「楊洲周延」展　（資料３）
「版画の青春」展　（資料４）

（４）２０２４年度前期の普及事業の振り返りと総括について　（資料５）

２．審議事項
（１）２０２５年度事業（案）について
・展覧会予定　（資料６）
・普及事業予定　（資料７）

３．その他

■出席委員：　諸川　春樹、三上　豊、降旗　千賀子、生嶋　順理、
吉田　和夫、岩﨑　直美、高橋　健志、三竹　和行（敬称略）

■出 席 者：　町田市文化スポーツ振興部 老沼部長、
町田市立国際版画美術館　大久保館長、星野副館長、
藤村係長（学芸係）、渡辺係長（普及係）、森係長（管理係）、
上村（普及係）、西（管理係・書記）

■会議録（要約）
○開会の宣言（町田市立国際版画美術館 副館長）
○町田市文化スポーツ振興部長挨拶
○館長挨拶（町田市立国際版画美術館 館長）
○委員紹介

１．報告事項

（１）２０２３年度の美術館評価について

○資料１について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

来館者数が４２，０００人増え、観覧者数は２６，０００人増えている。ということは、観覧者以外の部分で、１６，０００人増えているということになる。展覧会以外の活動が活発に行われた、ということか。

事務局

そうである。

委員

オンラインプレスリリースを活用しているとのことだが、リーチ数（記事など、媒体に取り上げられた数）の把握が大事だと思う。その数字は把握しているか。

事務局

リーチ数について、正確な数値は把握していない。数値の把握、分析について、今後の課題としたい。

委員

委託事業者に問い合わせれば、わかるかと思う。それをみることで、今回の内容だと、こういうところが取り上げてくれたというのがわかり、思ったところが取り上げてくれていない場合など、次のプレスリリースに反映させるなど、内容を精査していけるかと思う。

委員

屋外彫刻４点について、メンテナンスを行ったようだが、飯田義國氏の彫刻噴水が、一番手がかかったのか。

事務局

彫刻噴水については、２０２３年３月に修繕を行った。なお、保守点検は毎年行っており、そのなかで不具合があった場合には、修繕を行っている。

（２）２０２３年度後期の美術資料の収集状況について

○資料２について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

全国大学版画展からの収蔵作品は、現在どのくらいあるのか。また、その活用について伺いたい。

事務局

正確な数をお答えすることはできないが、昔は３０点近く受け入れていた時期もある。近年は１０点以下の受け入れとなっているが、相当な数になる。活用については、当館で行う展覧会の際、大学版画展の収蔵作品からテーマに合ったものを選んで展示することを近年は積極的に行っている。また、大学版画展の収蔵作品のなかには、有名な作家の作品も含まれている。そうした作品の貸出も積極的に行っており、今後も活用が期待できると考えている。

委員

収集する作品について、美術資料収集委員会で決めているのか。

事務局

まず、美術館の学芸係である程度、受け入れる作品についての選定を行う。その後、収集委員会の有識者に検討いただき、収蔵に値するというお話になったら正式に当館で寄贈を受け入れる、という流れになっている。

委員

寄贈を断ることもあるのか。

事務局

あまりにも作品の状態が悪い場合や、版画のため収蔵品と重複する場合など、お断りすることもある。

（３）展覧会の振り返りと総括について

○資料３について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

展覧会の観覧者数について、無料の方が相当数いる。３０～４０％が無料ということだが、これはどこの展覧会でも普通の数字なのか。２つの展覧会で、合わせて５０００人にもなる。「無料なら」ということで来る人もいると思う。そうした人に対しても、「年間パスポート」というのを販売してはどうか。一部の人でも購入してもらえれば、収入につながる。

事務局

公共の美術館の展覧会は、できるだけ開かれたものであって、多くの方に観ていただく機会を提示したい、という思いがある。そのために、シルバーデーや、展覧会初日・開館記念日など、当館の無料日が多くなり、その結果、無料の観覧者数が多くなっているという背景がある。収入を増やさなければならないという現実的な問題がありつつも、多くの方に観ていただきたいという矛盾したところで活動している。年間パスポートなど、いろいろなやり方があると思うので、検討していければと思う。

委員

映画館など、ファンクラブや年間パスポートなどによる優待サービスを設けているところもある。美術館の認知度をあげるためにも、検討してほしい。

事務局

国際版画美術館にも友の会があり、優待制度がある。また「ぐるっとパス」にも加盟している。今行っていることに加えて、新しいものについても、多方面から研究していきたい。

委員

国際版画美術館は教育委員会の施設ではないが、学校との関係が強くあると思う。小学校や中学校、そして高校や大学にもリーチできるような仕組みを考えてみてはどうか。

事務局

楊洲周延展について「赤ちゃんのための鑑賞会」を行い、乳幼児の方とその保護者に来ていただいて鑑賞する催しを実施した。同じく楊洲周延展では、近隣の小学校から団体で来ていただき鑑賞いただく機会を設けた。一方で、高校生など、なかなか届きにくいところがある。２０２４年度から、美術館教育について専門の学芸員が入ったので、今まで届いていなかったところに、どのように届けていくのかについて、届け方及び活動の内容を含め、検討していきたい。

委員

生涯学習について、あちこちの自治体で「市民大学」というものがあり、そこでは課外講座なども行っている。そういったところに「ぜひいらしてください」と呼びかけるなど、協働できることは多いと思う。また、図書館に展覧会の関連書籍のコーナーを設ける方法もある。中央図書館だけでなく、分館を含めて、図書の展示に協力してもらうなど、いろいろなかたちで、市民や子どもたちにアウトリーチしていけるよう、ぜひ検討していただきたい。

委員

アンケートをみると、比較的年齢層が高い。これから美術館が新しくなって続けていくなかで、新しいお客さんの開拓をどうするか、若い人のファンをどう増やしていくかについて、イメージがあれば伺いたい。

事務局

今回報告した「楊洲周延」展や「版画の青春」展は、落ち着いた内容だったため、くわえて浮世絵の展示の際は来館者の年齢層が高くなる傾向にあるため、若い人へのリーチが難しかった。当館はコレクションの幅が広く、グラフィックデザインは版画とも近しいところがある。イラストレーションも版画と親和性が高いと思う。テーマを若者の方々が関心のあるところに寄せていくと、若い世代の方たちにもアピールできるのではないかと考えている。また、SNS や YouTube、ニコニコ美術館など、比較的若い人たちが見ているメディアでの宣伝を、仕組みとして取り入れていくと、様々な年齢層の方に届いていくかと考える。

（４）２０２４年度前期の普及事業の振り返りと総括について

〇資料５について事務局から説明

〇委員からのご意見、ご質問等

委員

山崎中学校の美術部などが美術館を訪れたということだが、町田市内の美術部の作品を集めた美術展を開催する等、町田市内の中学校の美術部という固まっているコアを集めて普及活動につなげることが将来的にできたらいいのでは。

事務局

美術館では毎年１月、２月に小中学校作品展を行っており、そのなかで中学校の美術の作品を展示している。美術部の部活で作った作品も学校によっては、そのなかに含まれていると思われる。また、美術部の顧問は美術科の先生がされているかと思うが、小中学校作品展や研究会を通してつながりがあるので、情報提供や先生側からのご相談を受けており、他市に比べてもコミュニケーションは多いのではないかと思っている。今後も、ご要望などあれば受けていきたいと思っている。

委員

チャットＧＰＴなどでできないことのひとつに「体験」がある。美術館はそうした「体験」を提供できる場であってほしい。大学との連携については、「さがまちコンソーシアム」があるので提携してはどうか。SNS については、若者たちと大人たちとでは見るメディアが違う。年齢層に応じた SNS の活用が必要である。動画についても、長いものではなく、短くて次に続くようなかたちで見せるな

ど、作り方の工夫が必要だと思う。今後、美術館がどのようにメッセージを使えていくか、研究が必要である。
また、もし機会があれば、生涯学習センターとのタイアップも考えてはどうか。生涯学習センターはいろいろなコンテンツを持っているので、そうしたものとつながるとよいのではないかと思う。

事務局
大学との連携については、毎年１０月頃美術館で開催している「ゆうゆう版画美術館まつり」で、桜美林大学と玉川大学と連携しており、毎年ワークショップを開催していただいている。若者のメディアについては、Ｘの投稿が軌道に乗ってきたと感じている。それを見ている方の反応も実感している。前向きに進めていきたい。生涯学習センターとの連携については、センターの職員とコミュニケーションをとっており、今年夏の平和に関するイベントについても、美術館の学芸員が登壇するなど連携している。美術館の事業は生涯学習であるので、美術館にとどまらず、駅に近い生涯学習センターなどと連携し、事業展開してまいりたい。

委員
中学校の美術部に関して、部活の活動時間は週２回程度だったりする。また、美術部に入る生徒の印象として、美術を専門的に学びたい、というよりもアニメやゲームのキャラクターのイラストを自由に描きたい、という生徒が多いように感じる。そうしたなかで、顧問の教員は、みっちりデッサンについて勉強しよう、といった時間が週２回程度の活動なかで取れていないのが現状。すぐ近くに国際版画美術館のような施設があるのに、市内中学生の利用はそれほどでもない。中学生が活動しやすい夏休みに、版画美術館を訪れて何かを学び取る、といった課題を設けるなどの仕掛けづくりが、学校側でも必要かと思う。

委員
外国からのお客様の美術館利用が気になる。外国の方も版画に興味があるかと思う。近年、観光地には多くの外国人が訪れているので、収入の面からも、広報の仕方など、多くの来訪につながる工夫をするといいと思う。

事務局
外国人の方に向けて、英語表記の充実に努めている。今後、どういったことができるか検討していきたい。

委員
町田市内には４２校の小学校があり、第３学年は毎年社会科見学として市内巡りを行っている。３年生の子どもたちに、「町田市内には、国際版画美術館という美術館があるんだよ」ということを知らせていくよう、１日の見学ルートに入る

といいな、と思う。一方で、３年生が訪れたときにどのように作品を鑑賞してもらうか、という課題もある。
美術館の講堂では、小学生の美術展の表彰式を行うことがある。その際、我が子の表彰に、と訪れる親御さんが多くいるのに、表彰式が終わると２階の展覧会場にはよらずに、すーっと帰ってしまう。講堂の利用者に、展覧会を観てもらえるようなアナウンスがあるといいかと思う。会場提供だけでなく、そういった工夫があってもいいかと思う。

事務局
講堂の利用者の方に、展覧会に立ち寄っていただくアイデアや、工夫を考えたいと思う。

委員
版画だけだとなかなか興味が湧かない方でも、「みなさんも、版画の作品を持っているんですよ」「お財布の中のお札も版画ですよ」など、切り口を工夫することで働きかけられる。パソコンの中の基盤も、実はシルクスクリーンで作られている。街中のほとんどの看板はシルクスクリーンで作られている。衣服のプリントもそうである。そういった切り口からでも、版画に興味を持ってもらうことは可能なのではないだろうか。少し目線を変えて取り組んでみると、美術作品を観に来る層ではない利用者が増えるのではないかと思う。例えば、大学の建築の先生から「町田市立国際版画美術館はピラネージの作品がありますよね」と言われたことがある。建築を学んでいる方にとっては、ピラネージは非常に大事な人であったりする。このように、美術館にある作品の価値を、他分野の方から教えられることがある。「美術」とか「版画」に限らない切り口でやってみると、価値を見出してくれる人が、実は他の領域にもいらっしゃることに気づかされるかと思う。

２．審議事項
（１）　２０２５年度事業（案）について
〇資料６及び７について事務局から説明。
〇委員からのご意見、ご質問等
委員
「美術」「版画」をあまり固定的に考えてしまうと、旧態依然となってしまう。アニメやゲームが、今は主流になってきている。サブカルチャーだと思っていた時代とは違ってきている。現代版画について考えてみても、コピー機などをどんどん利用してきた過去がある。美術館が休室・休館に入る時期に、版画の概念を一度リセットしていくことも、必要だと思う。版画をインターネットでどのように伝えていくか、また収蔵品をどのように紹介していくかについて、今こそ外に発信していける時ではないかと思う。２０２３年の「自然という書物」展では、普段見られない図書がたくさん展示されていて、とても興味深かった。あれらも

印刷物であり、そうした作品が普段行けないところから、美術館に集まって展示される面白さがあった。それをネットのようなところでもできないか。作品をクローズアップして、映像で発信していく、というようなこともできると思う。美術館に来て、ルーペを借りて見ていたものが、モニターの中で部分アップにして見られると、世界観が変わってくるように思う。そのような企画を考えていただきたい。

事務局

休室・休館中に、いかにアウトリーチしていくかは重要だと考えている。SNS や YouTube の活用だけではなく、作品について深く入り込んでいけるような方法の模索は、非常に重要だと考える。収蔵品管理システムのデータベース公開など、いろいろなことが重なってくる時期でもあるので、それらと合わせて、ということも考えられるし、別の方法もあると思う。

技術と美術のはざまにあるのが「版画」のミソであると思う。いかようにもアピールの仕方はあると思うので、今日いただいたお話を含めて、考えていきたい。

委員

せっかく美術館が休みの期間に入るので、休館中に何ができるのかを、しっかり事業に入れ込んで考えていただきたい。その一つとして、外国語へのアクセスの整備が必要だと思う。ＡＩ翻訳の精度も上がってきているので、それを活用すれば、今持っているコンテンツを英語に翻訳できる。

委員

2025 年度末には、展示室がすべて休室になるということだが、そのあとの目安について、聞きたい。

事務局

国際版画美術館のリニューアルオープンのタイミングとしては、２０２８年１２月を予定している。それまでの美術館の開館状況について、隣接地で工事を行うため、市民展示室など、音や振動などの影響で利用できない期間が発生する可能性もあるが、全部休館ということはなく、工房などはやっていく予定である。

工房棟については、２０２７年６月に完成予定である。使用の開始は、引越し等の作業があるため、それ以降になってくる。

会長

審議内容について、承認でよいか。

（「異議なし」の声あり）

会長

審議内容を承認とする。

３．その他

○　芹ヶ谷公園“芸術の杜”パークミュージアムの進捗状況について事務局から説明（資料なし）。

○　２０２４年１２月電気設備の交換工事に伴う休館について、事務局から説明（資料なし）。

○ 閉会の宣言（会長）

―以上―